

令和7年度 大田区立高畑小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

令和8年3月6日

○学校規模	[児童数]901名 [学級数]29学級 [教員数]41名
○学校状況	[環境]近くに多摩川が流れ、教育活動に活用している。近隣に大型マンション等の建設が進み、近年児童数が増加している。教室等の確保のため、第一校庭に増築校舎を建設し、昨年度から使用している。 [特色ある教育活動] 1 「高畑スタンダード」を基本とした学習指導・生活指導を展開することで、全学級共通の学習・生活の基本的態度を定着させ、学習の基礎基本の習得・定着を図る。 2 読書活動の推進や課題解決的な家庭学習「自主学習」等の取り組みにより、思考力・表現力を伸ばす。

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄				
								評価人数	コメント			
生予個性測別 る困目力難標 をな1育未 成来社 会を 創 造 的 に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、タブレット端末やICT環境を効果的に活用した指導をしていると思う」と答えた割合	4: 90%以上	① ・全学年で自学自習を家庭学習に位置付け、児童が主体的に探究的な学びや教科横断的な学びに取り組めるよう指導している。 ・理科指導専門員から各学年1回ずつ授業についての指導を受け、理科の授業力向上を図っている。	A	3	・自主学習を掲示する場所があれば、学校に行ったら見に行きたいと思う。 ・いきものくらぶの活動場所にも、理科(生き物・植物)系の自主学習を掲示してみたい。 ・課題解決型学習についていけない子の指導をどうしているのか気にかかる。 ・実験授業を含む理科は専門以外の教員には難しく感じるのでぜひ各学年1回とは言わず、指導専門員から通年受けられるようにした方がよい。理科支援員とも良い連携を取りつつ指導して欲しい。 ・大規模校ならではの課題です。体験の場を様々な工夫されていると感じた。 ・個人差が生じた時の対応を知りたい。 ・すぐ答えて提示されるタブレットは、考える力を削ぐこともあるので、適切な利用とバランスが必要である。		
			3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。			3: 80%以上						
			2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。			2: 70%以上						
		1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満									
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	保護者アンケート「学校は、総合的な学習の時間や外国語の学習等を通して、英語によるコミュニケーション能力や国際理解についての意識を高める指導をしていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	B	3			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、総合的な学習の時間や外国語の学習等を通して、英語によるコミュニケーション能力や国際理解についての意識を高める指導をしていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	C	0			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										
お世個別 た目 をつ 標 担な2 うが 人 材 国 を 際 育 都 成 市 し ま す	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を育成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、総合的な学習の時間や外国語の学習等を通して、英語によるコミュニケーション能力や国際理解についての意識を高める指導をしていると思う」と答えた割合	4: 90%以上	4	① ・1、2年生は年間25時間、3、4年生は年間35時間、5、6年生は年間70時間、外国語(英語)による学習を行っている。ほとんどの時間に外国語教育指導員が入り、英語に慣れ親しみながら学習している。 ・外国語活動および外国語科の指導についての確認や共通理解を年度当初に担任も含めて行っておくようにする。 ② ・社会科や道徳の授業を中心に、異文化理解や人権尊重について考える機会を設定している。 ③ ・新聞やテレビ離れが進み、ニュースや時事問題への児童の関心は低い。社会科や総合的な学習の時間を中心に、社会課題を自分事として捉え、考えられるよう指導している。	A	3	・地域への愛着を育む学習についても評価の中に入れて欲しい。実際に公開された授業を観て、地元の方々との交流で住んでいる地の様子がより分かったのではないかと感じた。 ・新聞を作る活動は耳にするが、読む活動を取り入れるのはどうだろうか。遠足を含めた見学などの行き方も過去の時代の出来事やニュースをからめるとより社会的なことに関心が向くのではないかと。 ・地域での郊外学習の際、町会などにもボランティア(見守り)のお願いをして、学校でどのような学習をしているのか地域の人が知ってもらえる機会を増やしても良いかと思う。	
						3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						3: 80%以上
						2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						2: 70%以上
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満								
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	保護者アンケート「学校は、総合的な学習の時間や外国語の学習等を通して、英語によるコミュニケーション能力や国際理解についての意識を高める指導をしていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	B	3			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、朝学習、家庭学習、算数学習個別指導、放課後補習教室等、基礎学力の定着のための取組を積極的に進めていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	C	0			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										
た一個 め人目 基と標 礎り3 とが な個 性力と を能 育力 成を し発 揮す る	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通して継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、朝学習、家庭学習、算数学習個別指導、放課後補習教室等、基礎学力の定着のための取組を積極的に進めていると思う」と答えた割合	4: 90%以上	4	① ・道徳科を中心に全学級で道徳教育の充実を努めている。道徳授業地区公開講座を6月に実施し、授業を公開するとともに、保護者との連携や共通理解を図る場としている。 ・読書学習司書や図書ボランティア、六郷図書館と連携して、読書目標や読書月間の設定、読み聞かせの充実等、読書活動を推進し、豊かな情操の育成を図っている。 ② ・算数少人数指導教員と時間講師の加配により、学級数+2展開の習熟度別算数を3年生以上で行い、学習内容の定着を図っている。12月の算数少人数指導教員の退職に伴い、現在は学級数+1展開で行っている。 ・区の学習効果測定をもとにして、授業改善プランを作成し、各自が指導に生かしている。1学期末には、学習効果測定を行った全児童に学習カウンセリングを行い、課題を確認した。夏休みの個人面談では保護者に対しての説明をした。 ・朝学習の時間を週3回設定し、各学年の課題となっている内容の習熟を図っている。放課後補習教室は年間6回行い、基礎・基本の内容のさらなる習熟を図っている。 ③ ・年2回の「早寝早起朝ごはん月間」を設定し、チェックカードを用いて児童の生活を見直す機会を作り、保護者と連携して取り組んでいる。 ・年2回の業間体育やマラソンや縄跳び運動を行い、体力向上の取組を行った。児童が楽しみながら体を動かす機会を増やすように計画実施してきた。 ・2月には体育・健康教育地区公開講座を実施し、保護者や地域に授業を公開するとともに、保護者との連携や共通理解を図る場としている。 ④ ・年4回の小中一貫教育の日、六郷中の生徒が来校してのあいさつ運動、近隣の年長児と1年生の交流を実施し、保幼小や小中の連携やスムーズな接続を図っている。	A	4	・枠に入りきらないくらい、様々な取り組みがされている。 ・様々な学習の場を工夫して準備する姿勢には頭が下がる。特に補習などに参加する児童に自主性が芽生えるようならば効果は大きいと考えられる。低学力・低意欲の児童には家庭への働きかけも必要と思うので、担任教員の御苦労と手間を察している。 ・道徳の学習は保護者も一緒に学んで欲しいと感じる。大人向け、子供向けでなく、子どもが学習した内容・ことの気持ちを保護者に見てもらい、保護者(大人)としてどう捉えるか、学ぶ機会があってもよい。(学校公開での道徳でなく、日々の道徳の授業のプリントを保護者に確認してもらいたい。親子で一緒に考える機会があってもよい)	
						3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。						3: 80%以上
						2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。						2: 70%以上
			1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満								
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのことに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、朝学習、家庭学習、算数学習個別指導、放課後補習教室等、基礎学力の定着のための取組を積極的に進めていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	B	2			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	4	保護者アンケート「学校は、朝学習、家庭学習、算数学習個別指導、放課後補習教室等、基礎学力の定着のための取組を積極的に進めていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	C	0			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。	3	保護者アンケート「学校は、朝学習、家庭学習、算数学習個別指導、放課後補習教室等、基礎学力の定着のための取組を積極的に進めていると思う」と答えた割合	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	4	D	0			
	3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。	3: 80%以上										
	2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。	2: 70%以上										
	1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	1: 70%未満										

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「学校は、こどもの学力向上のために、指導内容や指導方法を工夫し、分かりやすい教え方をしていると思う」と答えた割合	4:90%以上	4	① ・今年度は「考えを伝え合い、共に学び合う児童の育成～協働的な学びができる授業作りを通して～」を研究主題として、校内研究を進めている。全学年で1回ずつ研究授業を行い、協働的な学びの充実に向けた授業改善に全教員で取り組んでいる。 ② ・主任教諭全員が講師となってそれぞれの経験や専門性を生かしたOJTを年間10回程度、計画的に行い、若手教員の指導力向上を図っている。 ③ ・教職員の会議の精選やICT活用による校務改善を推進し、授業準備や指導の充実に向けた時間の確保を行った。	A	3	・なかなか外部に見えないところですが、来校した時に先生方の仲の良さが伝わってきます。それが何よりだと思っています。そこがすべての根底にあり、様々なことにつながっていくと思います。 ・「働き方改革」が導入されても教員の仕事・事務作業や研鑽時間の捻出など、多忙を極める教員側の心身の健康を願っている。 ・日常業務が多忙中、このような取り組みに時間を割いてくださっていることに感謝いたします。				
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80%以上						B	3		
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。			2:70%以上								C	0
						1:70%未満									
た 自 個 め 分 別 の 目 学 し 標 び く 5 を い き 支 援 い き と 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整え、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「学校は、規範意識や社会性を育成するための心の成長を考えた活動を積極的にしている」と答えた割合	4:90%以上	4	① ・特別支援校内委員会を毎月行い、話題になったことを各学年で共通理解し、指導に役立ててきた。特別支援教室巡回教員ともこまめに連携し、通室児童の指導に生かすとともに、通室が必要児童の入室につなげている。 ② ・こどもの心サポート月間を年に3回設定し、全児童による「いじめアンケート」や3年生以上による「WebQU」を行っている。調査の結果を基に、問題や悩みのある児童に全員には、個人面談を行い、児童の心のケアに努めている。個別に工夫した声かけを行い指導している。 ・いじめを積極的に認知し、毎月のいじめ・不登校対策委員会での情報共有や、管理職や生活指導主任、学年主任を中心とした組織的な対応を早期から行っている。 ③ ・昨年度設立された登校支援のための「第二保健室」において、登校支援コーディネーターや登校支援員を中心に、登校渋り、教室渋りがある児童への支援を行った。 ・不登校児童に対しては、養護教諭やスクールカウンセラーと連携しながら、家庭との連絡を定期的に行い、学校との関係を維持できるように努めた。毎月のいじめ・不登校対策委員会での情報共有し、必要に応じて関係機関とのケース会議やオンライン授業も実施している。	A	4	・これからも居場所作りを大切にしていって欲しいです。 ・増加傾向にあると聞く登校渋りなどの児童について、高畑小でも対応する状況になるとは、その手間や御苦勞、業務の増加を推察している。 ・いきものくらぶの活動中に、支援員の先生から、「水槽の生き物たちがいることで、こどもも大人も癒されている」とお声掛けいただいたことがあった。みんなにとって、ほっとできる場所になれるよう、これからも活動を頑張りたい。				
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80%以上						B	2		
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:70%以上								C	0
						1:70%未満									
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 習 く 空 間 と 安 心 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケート「学校は、事故防止に務めるとともに、事故や問題が発生したときには適切に指導・対応している」と答えた割合	4:90%以上	4	① ・学級増に伴い新校舎を増築し、昨年度から使用している。 ・全教職員で毎月校内の安全点検や年3回の地域点検(学区内の危険箇所の確認)を行い、校内外の安全を確認している。必要に応じて用務主事や業者による補修等を随時行っている。 ② ・毎月避難訓練や安全指導を行い、安全教育の充実にも努めている。消防署や警察署、区役所とも連携して、交通安全教室や自転車教室、煙体験や起震車体験等を実施し、児童が体験的に安全についての学習ができるように計画・実施している。	A	4	・こどもたちの安全・安心への指導はよくされていると思います。保護者の安全への意識の向上が課題だと思われます。 ・勤務の都合上、児童が新校舎でどのように活動しているかは見学することは未だにできていない。死角になるような場所ではトラブルが発生しないよう願っている。 ・くらぶとくらぶの活動中に避難訓練があったので、参加させてもらった。一緒にやることで、どのような訓練をしているのか知ることができてよかった。今後も活動中に訓練があったら参加させて欲しい。				
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80%以上						B	2		
						2:70%以上								C	0
						1:70%未満									
学 地 学 校 校 別 を コ ・ 目 ツ ミ 家 標 ク ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 サ イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケート「学校は、保護者や地域と積極的に協力・連携しながら教育活動を進めていると思う」と答えた割合	4:90%以上	4	① ・学校支援地域本部や高畑読み聞かせの会と連携し、夏のわくわくスクールの実施や読書月間での読み聞かせ、授業支援ボランティアの募集等を実施してもらっている。 ② ・町会やPTAによる交通安全週間の登校時の見守り、PTAによる毎週水曜日の下校時の見守りを実施している。 ③ ・道徳授業地区公開講座や体育・健康教育地区公開講座、セーフティ教室、学校保健委員会等の講演会には、PTAと連携して多くの保護者が参加できるようにしている。PTA主催の家庭教講演会も実施している。	A	4	・町会の行事に子どもたちが参加したり、わくわくスクールの講師として地元の方が参加したりと、交流しながら楽しめていると思います。 ・保護者の任意団体と連携して活動する時も、教員が率先して協力体制を取っている様子は素晴らしい。今後も継続して欲しい。納涼大会や花火大会への学校の協力も非常に有難い。 ・今年度、支援本部に授業支援ボランティア募集の依頼が少なかったように感じた。先生方の負担が減るのであれば、支援本部としてお手伝いさせていただきたい。年度初めに先生方に支援本部に依頼ができることを周知して欲しい。				
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			3:80%以上						B	2		
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。			2:70%以上								C	0
						1:70%未満									

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。

○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す